

大臣
内閣

次官
官

電信課長

電信課

電報局長

電報局長

電報局長

電報局長

電送第五四〇五號
昭和十年七月一日 午後七時四十分

在任 内田大臣
石井大使

第七三三號

貴電第八號に關し

本大臣先在土内田公使來電第四五號

外務省

ニテ承知ノ通目下令公使に於テ希解

政府に對シ平明丸乗客全部ノ無系

件釋放方兩應交渉中ナル旨理事

會決議ハ右要求に對シ希解政府

於テ承諾ノ旨

確定ヲ俟テ實行スル場合ニ在リ

シテ未リタル場合ニ

テモ當初希解政府ヨリ土耳其僑民ヲ

タレーン島ニ陸揚方要求アリタル際之ヲ峻

拒レタル行懸ミアルニ一般僑民ハ出來

高陵送
4/7

得ル限リ伊玉^柳ニ陸スル様、ナンセン博士ノ
 盡カテ請ヒタキニ付右ノ趣旨ニテ令博士ノ
 了解ヲ得置カレタレ尚、セーヴル条約第一七
 八条(四)ニ據レハ、ミテイレーン島ハ英佛伊三玉軍
 隊之ヲ台領シ合時ニ希臘カ全島ニ憲兵隊
 及守備隊ヲ維持スルモ、姑クサル旨規定シ
 アル處、全島ハ現在何玉ノ軍隊台領レ
 居ルヤ電報アリタレ

外務省

電アリタレ

在英佛伊各大使及在土内田公使へ轉

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

九五〇
(日)

倫敦
本署
大正七年七月一日
日

内田外務大臣

林大使

主計

第七九號

往來第七八〇號ニ當ル

三十日附以テ外務省ヨリ平明丸ニ當ルニ對伊中

入シ支持方在リトシ大使ニ訓令セシ旨迄同船現

狀ニ當ル在リトシ英國領事ノ報告ニ在リ

邦英國大使ニ電報ニ日本政府ニ通知セシ旨

通知アリタリ。

伊佛及土耳其ニ轉電セリ。

門	5
類	2
項	1
號	

要旨

文書課長

大正十年七月二日 接受

大正十年七月一日起 草率

大正十年七月二日 發送済

普通第三三三號

主任

第一課

要旨付了

陸軍次官宛

埴原次官

在西伯利亞俘虜ニ関スル經費分擔ノ件

本件關シ在英大使ヨリ報會ニ依テ分般英國政府ハ昨年十月以降在西伯利亞俘虜ニ関スル經費ヲ分擔セラルコトニ

決し客年九月其旨在浦潮國際委員會ニ通達シ置
 キタル件本件分擔額請求ヲ撤回セラレ度旨一昨年十月
浦城ニ於て其旨を多クも述揚英米側ニ提言せし
 月本年一月ニ至ル經費計算書ヲ附シ申越シタル趣ニ有
左取附ヨリ
 之候間浦潮御考右茲ニ及御通報候也
若し其旨
 追テ本件公文並ニ計算書ハ同大使ヨリ追送可有之候
 付、浦城、此、陳、車、陳、候

第231號關係

小

944天 兩倫敦發 大正四年六月 不ニシ 經由 西八月廿九日

内務大臣 林 大使

大正三年五月廿四日記録係接

陸(イカ)

要處分

外務省が 經濟事務分 主として國執し来 りるに成り 取

當國政府ハ一昨年中十一月以降在西伯利亞 浮虜ニ関スル經費ヲ今擔セサルフトニ決 シ客年一月九日其旨在浦沙國際委員 會ニ通達シ置キタル趣ヲ以テ本件分擔 額請求ヲ撤回セラレ度キ旨一昨年十一月 ヲ本年一月ニ至ル經費計算書ヲ附シ申 越シタリ(浦沙ニテ我々官憲ヨリ直接英國側ニ 提出セルモノナリ)本件公文並ニ計算書ハ追送ス

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

9693 暗

羅馬教皇の事六月廿四日陽一。
本署署令 七月三日前六二。

内閣外務大臣 陸台大使

第一七八號

貴電第一七九號、同し

二十三日英國大使の往訪往電第一七九號、
何國、申込の次第の詳細説明し其ノ支持の
メスル所同大使の往電第一七九號ノ事ヲ奉
々直ニ處ス一々次第ナリヤト問ハルニ由リ本
使ハ大体同様ノ趣ナリカ五月以來多少ノ
経緯アリヌ後今更ハ希臘トノ談判纏マル迄

第24門

亞明九ノ何國ニ入港スルノ承諾ヲ求メル次
第ナリ尙ホ此事ニ付テハ在英大使ヨリ英國
政府ニ申入ツ為ス一々英國政府ヨリ更ニ訓令
アルナラニカトモ考フル旨語リヌルニ大使ハ
奥ニ角二三日待テ其ノ上訓令来ラサルハ胸
合ノ上處置ス一レト答ヘヌリ
吳佛又出耳古、轉電ス

政務次官ノ秘書官が
在英大使ニ對シテ傳言アリ

主款

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

210
511

9711 暗

四馬島 庚申年七月一日辰七、二〇
幸者 各々 三日ハ〇、一〇

並致

内閣外務大臣 露合大使

第 八六 號

往電 第一三八 號 同

英國大使ハ本國政府ノ訓令ニ遵ヒ平明ニ事
件ニ関シ閣下行ハシ居ル希臘政府トノ談判
が満足ニ解決スル迄同汽船が伊國ノ港ニ
入港迄泊スルコトノ許可アル標伊國外務省
ニ於テ必要ノ手續ヲ執ラシメコトヲモテス
ル旨三十日附ハットベルバルニテ當 外務省

一 申入タル旨通致ニ来シリ
英佛外、轉電ニマリ

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約



9838 (暗)

君府発
本省着

大正七年七月

官后ハ

六日五二五

内田外務大臣

内田公使

第四號

往電第四號ニ開シ

同會議ノ結果英佛伊三國高級委員ハ各々其本

國政府ニ対シ大要別電第五〇號ノ通電請シ又

三委員連名ニテ希臘高級委員ニ対シ大要別電

第五二號ノ通申入レタル趣ニテ伊國大使ヨリ

公大ヲ以テ其寫ヲ送付シ來タレリ別電中ニ引

用セル本使ノ書簡トハ往電第四三號中速ベタ

陸海參軍

ル向合狀ナリ

英佛伊へ轉電セリ

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

9822 晴

君府委 大正十年七月

冒後八〇〇

言前二〇七

内田外務大臣

内田公使

第五〇號 別電

聯合軍高級委員、土王政府並、日本高級委員、平の九松、土身古人、解放、要請、一着、輸、接受、七、前記、土身古人、其、軍人、土、非、軍人、土、論、無、土、身、人、地、休、取、安、全、言、君、存、帰、還、行、可、セ、ル、事、全、三、五、高、級、委員、六月、二、日、官、全、議、議、其、解放、方

總陸海參軍

ニ、其、他、希、高、級、委員、照、合、状、ラ、委、件、ラ、議、決、シ、又、同、時、本、電、ト、同、文、電、報、ラ、各、本、国、政府、ニ、發、シ、其、解放、ノ、目的、を、徹、ス、高、級、委員、ニ、對、シ、必要、ノ、交渉、ヲ、開始、ス、其、結果、ニ、決、定、セ、ル、(後、略)

英佛伊(特電セ)

電信課長

水川

大臣

次官

注

9805 (10) 三ノミナリノ不致 大正十一年七月 五ノ〇〇 五ノ〇〇

内田外務大臣

内田公使

佛英三國高級委員の對國政府

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

佛英三國高級委員の對國政府
より六月廿日付の照會を平明九搭乗お耳に
人釋放の方を希望し居るが之を如何に要求
せざる間う接交し日本高級委員より
亦六月廿日付書簡より本件に付尽力
方依頼に就せり

陸海參軍

三國高級委員の平和提案が軍人にと
非軍人にと不同の傾向を有し依りて依りて
是府内閣の許可を要する事実は
外國政府は日本高級委員の要求に之を
ルに不協和の傾向を有する事実は
余等が對此に直ちに平明九搭乗全部
紙面より日本高級委員の意向を
之を正確に把握する

Il assistent aussi l'occasion
pour faire relever que la doit de

libre voyage à Constantinople, tant
des passagers ottomans de Heimeinour
que de ceux du bateau bulgare
Kypilos, ne dépend aucunement
de leur qualité militaire ou civile,
détail dont les Hautes Commissaires
n'ont pas eu à s'occuper, mais
du fait qu'il voyageaient sous
la garantie du permis de la
Commission d'armistice, dont les
(3)

Hautes Commissaires alliés prennent
directement la responsabilité.
ある又三島白鳥の本件を以て、
地方に聯合して、亞細亞府に交渉を
開始する。招きある政府、中絶するに
困難あり
英仙白鳥の報告

電信課長

大臣

次官

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

七暗

巴里發
本省着

大正十年七月廿日 第九二五

内田外務大臣

石井大使

第九號

電第六一六號。閣下
理事會ノ決議ニ從ヒ希臘政府ニ交渉方事務總長
ヨリ「ナンセン」博士ニ電報ニテ移牒シ其ノ旨ヲ全
總長ヨリ希臘政府ニ電報濟ノ答ニテ此際交渉ノ
順序ヲ變更セントスルモ已ニ時變後レタレバ其
ノ成行ニ任ス外ナレト思考ス尙多國外務省係員
ノ談話ニ依レバ「ミタレン」島等ハ目下希臘軍ニ於
テ占領中ノ趣ナリ。英、伊、土ニ轉電セリ。

昭和十一年七月廿日 第九二五
在西北和云云 陸軍省

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

9925 暗

羅馬着
本省着

大正十年七月 六日後、二一〇
八日前九五。

内田大臣

落合大使

第一九二號

往電第一七七號ニ関シ五日總務長官ニ面會シ成
行ヲ問ヒ合セタル處多忙ノ爲メ自分ハ詳細ノ事
承知セズトテ早速係員ヲ呼ビタルガ其ノ答ニ
恰モ今朝 總理大臣ノ方ヨリ平明丸ニ関ス
ル日本ノ要求ニハ應ジ難キ旨回答アリタル次第
ナリト語リタルニ付本使ハ其レハ如何ナル事情ナリ
ヤト問ヒタルニ先方ノ説明ニ之ハ種々ノ理由ア
リトノ事ナルガ一方在希臘伊國公使ヨリノ報

總務海參軍

告ニ依レバ希臘政府ハ三國 公使ノ本件ニ関ス
 ル照會ニ對シ停廢ガ「アンゴラ」軍ニ加ハラザ
 ル保証ヲ得バ解放ニ異議ナシト答ヘタル由ニテ
 今迄ノ態度ヨリモ和衷的トナリ 今一歩ヲ進
 メバ此方面ニ於テ解決ノ道無キニ非ルヤニ思考
 セラルト語リ居レリ目下内閣更迭ノ際ニテ新
 外務大臣モ六日夕帰着スル由ニ付其ノ就任后概
 會ヲ看テ今一應本件ニ付懇談ヲ試ミンカト考ヘ
 居ルモ先方ハ本問題ニ付各方面ニテ種々ノ解決
 方法試ミラレ居ル 事情ハ良ク承知シ居レルモ
 ノノ如クソレ等ノ關係上我 要求ニ應ゼザルニ
 ハ非スヤト推察セラル 英佛土耳古ハ轉電セリ

2004年7月6日
 在露型と新條原の署名

電信課長

大臣

次官 佐

亞細亞

歐米

通商

情報

人事

會計

文書

平和條約

7月6日
 暗コンスタンケーバル
 7月8日
 7月8日

内田外務大臣

内田 公便

貴電第一号

貴電第一号、内レ布便ヨリ往電中四五号ノ通
 往電中二五号希臘回答ヲ返一及致シテ平明ニ條
 虜全部無條件解放方ヲ交渉シ之ニ對シ往電中四
 九号ノ通電地英佛、伊、三國高級委員ニ布便左様
 「デマシ」ヲ執リ居ル處他方石井大使查閣下
 此電後八号ノ通電件ハ又對府 聯盟理事會ノ
 向題トナリ理事會ノ決議ニテ希臘政府ニ對シ平
 明ニ格致土耳其人ノ一部ノ直 解放シ他ノ一部

ヲ中立港文「ミケレン」上陸方（往來第二五
号希臘中出ト始メ全趣旨）自レ交渉セシキ
ナレハ「博士」託スルト共ニ事務局長ヨリ右理
事會交渉ヲ快諾スル極政府、東京方ヲ既ニ市
臘ス、勸誘セシ趣、右理事會決議、ハ日本
賛全シ居ル治方ナル、執ラリ不便、旅テ
今度トモ無条件解放ノ交渉ニ歩ミ進メ豫メ
訓令通リ希臘、対レ談判中全船中立港回航ノ交
渉及土耳其對シ其ノ際ノ給与費支辨ノ交渉事
務スヲ見合ハスハキヤ不便ノ執ルハキ態度、ソ
キ折返シ何カノ訓令相成度
高キ 在佛大使館書記官「二号」依リ「ナ

ニセ「博士」旅テ手段ヲ延ハシ居ルトスルモ
希臘、事務局長ノ談、依リ既ニ交渉ノ趣旨ヲ知
リ居ル、付全「博士」ノ交渉ヲ待テ不便、回答ス
ル方ヲ便宜トスル居ル事、アルハレト思方セ
ル右中居ル
英、佛、伊、露、

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

複寫済

昭和十一年七月九日
外交部
内田公使

大正十一年七月九日

本府着

内田外務大臣

内田公使

第五五號

七月七日、多地利諸新聞ハ雅典電報トシテ数日前
多地利希臘高級委員ハ健康上ノ理由ニ依リ辭表
ヲ提出シタルトモ聽許セラレテ題ヲ報セリ、今委
員ガ至ラ健康ニテ此頃頻ニ活動シ居ルニ鑑ミ右
ハ平明九事件ニ付本官及英佛伊高級委員ノ交渉
（注電第四十五及第五十一号）ヲ本國政府ニ取次
ニ當リ其ノ立場上進退ヲ伺ヒタルモノニ非ズヤ
ト察セラル。英佛伊ハ轉電セリ。

複寫

電受第九九九九號 暗

君府發
本省着

大正十年七月 七日后六、五〇
九日后十、〇七

内田外務大臣

内田公使

第五五號

七月七日ノ當地諸新聞ハ雅典電報トシテ數日前在當地希臘高級委員ハ健康上ノ理由ニ依リ辭表ヲ提出シタレドモ聽許セラレザリシ趣ヲ報ゼリ、同委員ガ至テ健康ニテ此頃頻ニ活動シ居ルニ鑑ミ右ハ平明丸事件ニ付本官及英、佛、伊高級委員ノ交渉（往電第四十五及第五十一號）ヲ本國政府ニ取次グニ當リ其ノ立場上進退ヲ伺ヒタルモノニ非ズヤト察セラル。英佛伊ヘ轉電セリ。

外務省

（已號用紙）

5-0643

0022

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

10085 暗

羅馬客 大正十年七月十日 午後二時

内田外務大臣 落合 大使

藤一九七号

往電第一九二号ニ答シ

外務総務長官、意見モアリタルニ付十日

新総理大臣ヲ往訪ノ節、即平明ニ

事件成行、大略ヲ述ベ先後尚

其好意アル考慮ヲ求メタル知全大

臣ハ未ダ事件ノ顛末ヲ知ラカリシ

事ヲ述ベ外務総務長官ト打合

何カ、義考慮スベキ旨答ヘタリ

土庫古及在英佛大使へ轉電セリ

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

10094 暗

巴里裁兵十年七月十日午後八時
本省署 大 士 日 九 四 〇

主改

内閣外務大臣 石井大使

第一〇四六號 (至急)

往電第一〇一九號 閣下

七月七日事務總長接到「ナンセン」博士電報内

客大ノ通

希臘政府ハ余ノ電報ニ對シ「俘虜ノ中立領土
者ハ希臘領土ニ在リテ中立タル一キ收養所
ハノ上陸及收養ヲ聯盟ノ名ニ於テ且ツ希臘政
府ト協議ノ上監視ス」キ第三者ノ任命リ是

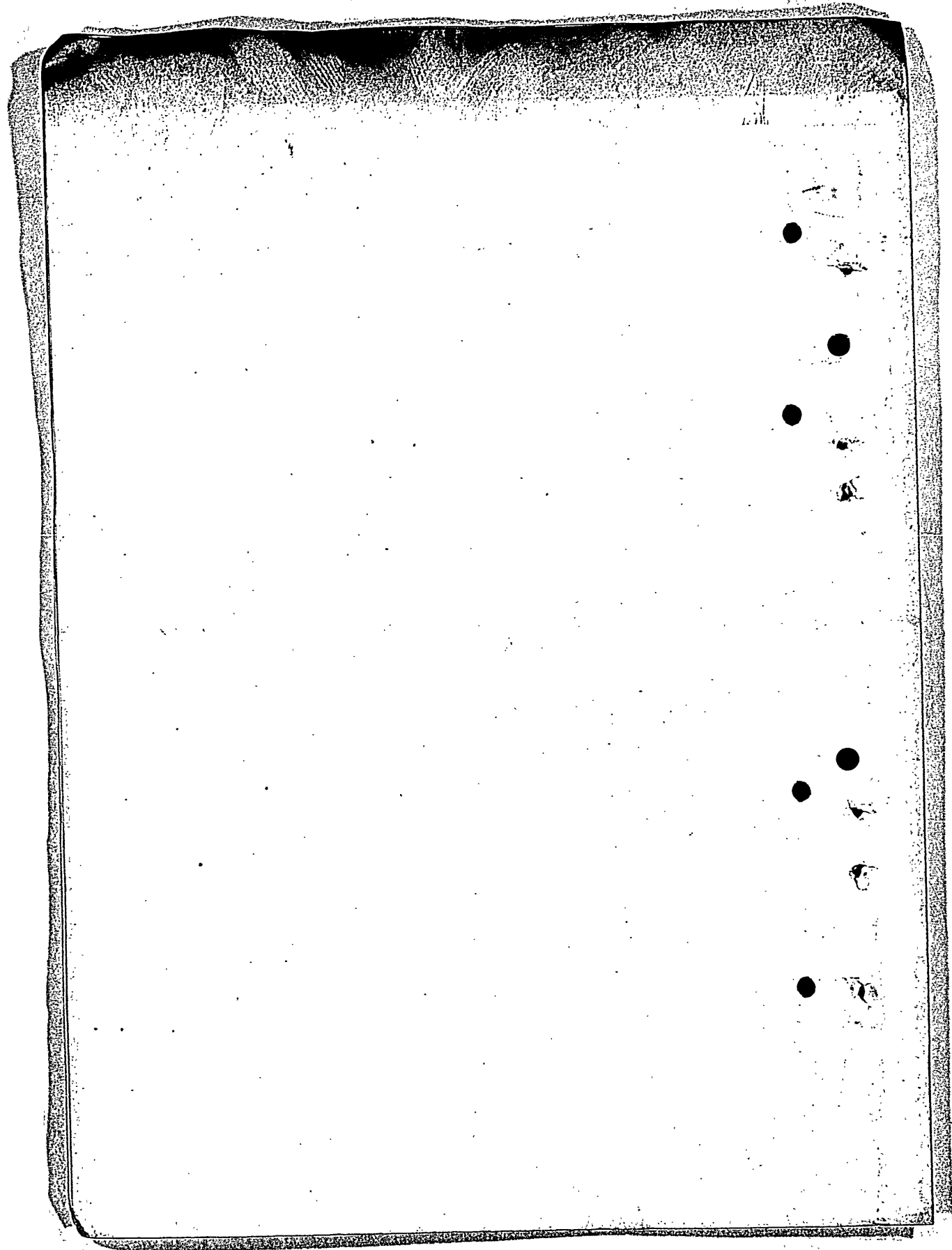
總陸海參軍

謀ス依テ右ニ對シ日本政府ノ同意取付ケ方
ヲ請フ衛生班員及個人(婦人小兒ノ如キ非
軍人)ヲ指スナランハ希臘政府ニ於テ常テ俘
虜ト見做ミタルコトナレ故ニ右等ノ者ノ取
士坦丁堡其他ハノ上陸ハ自由ナリト回電ニ来
レリ試テハ如何ナル地点ヲ收養所ニ指定セラ
ルルヤ萬國赤十字委員會ト交渉シ其ノ代表
者ヲ任命シ直ニ衛生班員及非軍人ノ送還方
取計ハルル考ナリヤ余ハ折返シ何方ノ所意
見ニ接スル迄希臘政府ニ回答ヲ見合セ置ク

ハニ
本電報ニ付希臘カ聯盟理事會ノ希望全部
リ容レ非軍人ノ即時解放捕虜軍人ノ中
立國又ハ中立地タル一キ希臘領一地点ノ
上陸ヲ謀ミタレハ残ルハ日本ト土師古トニテ
適當ナル中立地ヲ見出スリ第一手段トシ
之ヲ見出シ得サレハ第二方法ニ移リ希臘
領一中立地ヲ求ムルノ方針ヲ以テ聯盟派遣
ノ代表者ニ希臘政府ト交渉セシムルコト
本件解決ノ捷徑ナリト存ス而シテ「ミチ

シノ一地点ヲ中立ト為ス以上日本從來ノ武
士道的主張ト矛盾スルコトナカレハ「ミチ」存
ス事務局ニ對シテハ非公式ニ日本政府ノ回
答アル迄「ナレセン」博士ノ回答ヲ待ツ様頼ミ
置キタルニ付右ニ對シ何合ノ儀至急回電アリ
タレ

英伊及土師古、轉電セリ



5-0643

0026

renseignement de ce genre est dénué de fondement.

La raison du retard dans l'envoi de ces renseignements est dû au fait que le Gouvernement Royal voulant être sûr des renseignements qu'il allait fournir a cru devoir instituer une commission médicale spéciale pour examiner la condition sanitaire tant des prisonniers que de l'équipage du vapeur susdit. Cette commission s'est donc rendue à bord du HEIMEI MARU et a rédigé un rapport qui se resume dans les renseignements que j'ai eu l'honneur de fournir plus haut.

Dans l'espoir que ces informations seraient de nature à calmer les parents des membres de L'équipage qui étaient fort inquiets par suite du manque de nouvelles je prie Votre Excellence de vouloir bien agréer les assurances répétées de ma plus haute considération.

J. X. Grottelund

LÉGATION ROYALE
DE GRÈCE
AU JAPON

Tokio le 11 Juillet 1921

NO. 125

21890

要目付

平
10
A
7
件

Monsieur le Comte ,

En me référant à L'entretien que Votre Excellence
a bien voulu m' accorder le 31 Mai dernier au courant
duquel Elle m' a fait l'honneur de me remettre un
Mémemorandum pour me faire savoir que des cas de suicide
et d' aliénation mentale s'étaient produits, à bord du
HEIMEI Maru actuellement au Pirée, parmi les prisonniers
Turcs par suite du desespoir dans lequel ils se trouve-
raient, j'ai l'honneur de porter à Sa connaissance que
mon Gouvernement vient de me faire parvenir les rensei-
gnements suivants.

L'état de santé des prisonniers Turcs et de
l'équipage du HEIMEI MARU est parfait. Aucun cas de suicide
ou d' aliénation mentale n'y a été constaté et que tout

Son Excellence

Monsieur le Comte Yasuya Uchida

Ministre Impérial des Affaires Etrangères

etc, etc, etc.

大正十年七月十二日
七月十一日
来省文
收
主
管
區
代
理
人
第
三
課

大正十年七月十一日

大臣
次官

読解

欧米局長

（印）

一九二一年七月十日

大正十一年参月廿七 記

外務大臣宛

希臘代理公使

平明丸船中病人之報告件

以書翰致送之。陳々本年五月廿日閣下ハ
目下「ピレウス」港ニ在ル平明丸搭乗ノ土耳其人
當中ニ六名現ノ餘自殺者ハ數名有リ生シ
タル者ノ數ハ七名現ニ與ヘラレ知事使ハ茲ニ本
國政府ニ報告スルハ此報告ヲ閣下ニ傳
達スル次第有リ

外務省

件

土耳其捕虜ハ平明丸乗組員ノ健康狀
態ニ完全ニテ曾テ自殺者ハ數名有リ生シ
タル者ノ數ハ七名現ニ與ヘラレ知事使ハ茲ニ本
國政府ニ報告スルハ此報告ヲ閣下ニ傳
達スル次第有リ

本報告ノ譯者ニハ主國政府ハ其提供セ
ルハ此報告ノ確實ナラニテ事ヲ欲シ捕虜并
ニ平明丸乗組員ノ健康狀態富々ナリ為
健康富々ニテ殺スルヲ要ト認メタルハ為
ニオラスルハ要員ハ平明丸ニ到リ概要
如キ報告ヲ閣下ニ傳
送セシ消息ナキ為テ深ク憂慮セシ乗組

（戊戌用紙）

(成
続
用
紙)

貴家族ヲ安堵セムルニ是ラニテリヲ祈ル
本申進上ノ奉便ニ新ニ閣下ニ向テテモ
敬意ヲ表シ候

敬具

外
務
省

5-0643

0030

電信課長

大臣

大官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

10200 (暗)

巴里

本署

内田外務大臣

石井大使

主政

第一〇六八號

往電第一〇四六號。末段ニ関シ事務局ヨリ十日
附テ以テ回答ニ接シタル所右ニ依リ「ナシセン」
ト答テ既ニ希臘政府ニ對シ其ハ代表者ノ氏
名及同代表者ガ直ニ希臘ニ向ケ出發スベ
キ旨通知シタルヲ以テ此ノ上直ニ同代表者ヲ
出發セシメ今週末頃同代表「アゼン」到着近日
本政府ノ回訓到着セバ直ニ之ヲ右代表者ニ電
報スルコトヲ得ベク。若シ回訓間ニ合ハズバ其

總務課長

同代表者ハ何等決定的手段ニ出ツル由ナク希
臘政府ト豫備的協議ヲ為スコトセバ本件解決
上最不幸ナル遲延ヲ免カルヲ得ベシト是レ
右ニ賛成セシコトヲ求メ来レルニ付本使ハ右提議
ニ異存ナキ旨回答シ置ケリ。就テハ往電第一〇
四六號ニ對シ至急ヨリ回電ヲ被テ。
英佛大使ハ往電セリ。君府ハ往電セリ

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約



七月十四日

本署

内田外務大臣

内田公使

大正十年七月十四日

第八号

要旨

七月七日附より平明九搭載上耳人二箇レ大
要テノ通報告シ得未本件日本ト聯絡スベキヤ
或ハ國際聯盟ノ關係上石井大使ト聯絡スベキヤ
内々越タル付電五二号ニ関シ折返シ所
回電アリタシ。

記

一停虜人員ハ七月一日現在九百九十四名ナリ。(内希

陸海參軍)

聯人ハ名。美國及佛國委任統治領ニ居スルモノ十

五名。

二監督將校ハ停虜高級將校ト協力レテ船内秩序
維持ニ力メツアルモ停虜一般ニ各自ノ自由ヲ求ム
ルニ汲々トシ軍規ニ弛緩セントス。停虜中病
氣診察ヲ受クルモノ毎日約四十名ニシテ内重患者
六名ハ希國官憲ニ交渉シ陸上病院ニ移レテ八
名ハ目下交渉中。

三最近逃亡者續出セル為(十九名)希國官憲ハ船
尾近クノ陸上ニ歩哨ヲ配置シ又時々船ニ巡邏
シ但日本人ノ出入ヲ妨ケス
四糧食ハ希國軍隊ニ準據シテリテ品質悪カラサ

レ氏數量不足ニ付希軍隊ト同一量ナリヤ調査中
五、停虜、海運出帆以來金銀ノ給與ヲ受ケサルヲ
以テ其ノ大半ハ日用品ヲモ 購求シ得サル窮狀
ニアリ、土國新聞社ヨリ土貨一千磅送金ノ報アリ
リシモ、右コレハ到底之ヲ救済シ得サルニ付近希
國政府ニ對シ本年四月以降停虜ニ對シテハ陸上ニ
アル土國停虜ト同額其ノ他ニ對シテハ毎月三
十トヲ付ス、然料ヲ支給センコトヲ要求ス、
六、希國官憲ハ土耳其醫官駐船内希虜人ノ解
放ヲ通告シ越シタルモ言渡不通ナル日本軍ニ
シテ一人ニテ船内衛生ニ當リトハ不可能ニ付監
督停虜ハ土國停虜ヲ若者政府ニ引渡スベキ余

令ヲ受ケ居ルノミナルニ依リ斯ノ如キ交渉ハ日本
政府又ハ其ノ代表者ト直接交渉セラレタキモ
固々ナリ、
右希虜人ト同様ノ狀態ニアル各國赤十字院迄欲
ニ虜人停虜ノ買シテモ將來同様ノ困難生ハ
ベキモ委員ハ希國政府トノ直接交渉ヲ拒絶ス
ル考ナルガ右ニ對シ佛内閣承認ヲタレ
佛ハ難色セリ。

大臣
陸軍省

大官法

電信課長

電信課長

電信課長

電送第九九二二號
大正七年七月二日午後六時分發

内田大臣

在佛
石井大使

第六十六號

大正七年七月十七日
記録係接要

貴陸送

貴電第一〇六八號一関レ

伊國・於テハ在伊大使來電第一九二

外務省

號・ミテ少承分ノ通平明丸ノ自玉ノ港

ハ入港スルヲトスラ承諾セサル以上全

土耳其俘虜ヲ全玉内ニ收容スルヲ付

合意ヲ取付クルハ利害不可能

方希願側ニ於テ全

虜ノ無条件解放ヲ承諾セサルヘキ

付結局

ヲ中立地トシ該地内ニ土耳其俘虜ヲ

收容レ、ナシセシ博士ノ指定スル人ノ監視
 ニ委ヌルコトトスルノ外^{ナシヤミ}ニ思考スル處
 右實行ニ^{先キ}豫メ左ノ諸項ヲ確カ
 ヲ置ク^{必要アリ}ト思ハルニ付互
 急電報アリタシ
 二右ノ場合ニハ給養費ハ何玉ニ給テ負
 擔スルコトトナルヘキヤ若シ土耳其政府ヲ
 レテ負擔セシムルノ趣旨ナラハ、ナシセシ博
 士ニ於テ右ニ関レテ政府ト交渉スル次
 第ナリヤ
 二右ノ場合俘虜ノ監視目ハ、ナシセシ博士
 ノ指定スル人ニ委嘱スルトスルモ千人ニ近キ
 多数ノ俘虜ヲ一個人ノ監視目ニ委ヌルカ
 ハ到底不可能ナルヘクサリトテ希隊軍
 隊ヲレテ監視目セシムルコトモ中主ノ性質ト
 相容レサルヘシト思ハル處右監視ノ方

外務省

法ハ如何ニ定メラルヘキヤ又之ニ要スル費用
ハ何人ニ給テカ員擔スルヤ

ミ、シグイル、傷病兵、婦女、小兒等ハ如何

ニシテ君府ニ送還セラルヘキヤ又送還費用ハ
何玉之ヲカ員擔スルヤ

右參考トシテ在英伊各大使及土耳其ハ

轉電アリタル

外務省

電信課長



主、政二

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

巴里幾
大正十年七月
廿一日迄九、一五
廿三日迄六、二〇

内閣外務大臣 石井大使

第一一二三號

貴電第六七六號、関シ

一、依養費ハ、ミケレシノ一地矣ヲ中立トナ
ス上ハ中立國ノ場合ノ如ク土耳其カ既ニ
此ニタル承諾中ニ含マル、儀ト思ヘラス
「ナニセシ」博士ハ土耳其ト交渉ノ委任ヲ
受ケ居ラス

總陸海參軍

二、監督ハ停虜中、在話人ヲ設ケ大伴ヲ「ナ
ニセシ」指定人ニテ監視ストセハ不可能トハ
思ハレヌ

右指定人、要スル監視費ハ理事會ニテ
補及ナカリシモ當然理事會ノ負担ト信ス
三、「ニセシ」婦女小児等送還費用ハ勿論
土耳其ノ負担ナルニ

本件迄々遷延ヲ来セハ、付至急「アセ
ニス」ニ於テ談判セシメ土耳其負担ノ費
用問題ハ政府ニテ協議會再開致サシ

タシ
望急回電ヲ待フ

(修)

電信課長

大臣

次官性

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

10609 (暗)

羅馬落
本省署
廿百右三三〇
廿百右三三六
外務大臣
落合大使

第三三三號

平明丸ヲ伊予港灣ニ入港セラル件ニ關シ七月
十六日附屬書ヲ以テ當否外務省ヨリ尤ノ通リ
回答シ来レリ。

六月二十三日附貴口上書ニ對シ平明丸ノ伊予一
港灣ニ入港許可方ニ關シ伊予内務省ハ全船
ニ在ん土其古前俘虜ハ小丸場所ニ集合
シ居タルコト故彼等ノ衛生状態ニ鑑ミ之ヲ
上陸セシメ伊予一地方ニ收容スル必要ヲ生

陸海參軍

政府ハ伊予ノ俘虜ヲ
在在比邦ニ移シ以テ
伊予内務省ニ送付ス

主款

ざへキ慶右ニ對シテハ前記内務省ニ絶對ニ
 之ガ屬置ラ講ナル能ハズ依テ日本大使館
 ノ要求ニ應ズルコト能ハサル旨回答シ来レ
 リト。
 英佛土ニ轉電セリ。

電信課長

大臣

次官 佐

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

10611 暗 羅馬後 大正十年七月廿一日 右三三〇
 本府着 金 年七月廿五日 右三四五

内田外務大臣 落合大使

第三四號

往電第二三三號ニ関レ

廿一日外務大臣ニ面會更ニ事件ノ性質ヲ
 説明シタル上何トカ方枘考究ノ餘地ナキ電ノ
 ニヤト懇談シタル處大臣ハ猶一應研究シ置ノ
 ベシト答ヘタリ
 英佛ニ轉電セリ

陸海參軍

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

10/53 暗 本省 着 廿五年七月 廿五年七月 廿五年七月 廿五年七月

内田外務大臣

内田公使

第六三號

七月廿五日在當地美國赤十字代表者來館
在「アマール」で博士希臘派遣員 Schlammer
氏より昨日接受セリトテ制電第六四號電文
ヲ示シ公認中ニ地例ハ伊公ニ行ク等ノ場
合費用ヲ負担スベキヤヲ赤十字代表者ニ交渉
セルニ資力足ラズテ到底之ヲ負担シ難キ旨
答ヘリ尤ニ付土其古政府ニ交渉方ヲ同社ニ依
頼セル旨ヲ語リ

當方ニテハ之ヲ明キ取ルニ止メ置キタリ
平明丸事件ニ関スル本省ノ御意見玉急脚
確定即回電アリタシ

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

10758 平

巴里 本省着

大正十年七月二十五日午後五時
二十六日午後九時

主政

要旨付

内田外務大臣

石井大使

第二一三八號

二十五日ナニヤ博士ヨリ別電ノ如ク申越セリ
右ニ依レハ健全ナル戦闘員ノミ伊國ニ收容シ其
他ヲ解放送還スルハ「ケネディ」中ストス
ル案ヨリ一層土耳其ニ好都合ナリト信スルニ
付本使ハ政府ノ名ニ於テ同意ヲ表シ聯盟理事
會ヨリ伊國政府ヘ交渉セシムルコトトヤリ英伊
土ヘ轉電セリ

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

10804 平

巴里 本省着

大正十年七月二十五日午後五時
二十六日午後九時

主政

要旨付

内田外務大臣

石井大使

(不電) Athens: 於テ代表者 Schlemmer ヨリ左ノ電
報ニ接シタリ(不附)希臘ハ「ケネディ」軍ニ投降ス
ベキ健全ナル軍人ノ解放ヲ降キ總テ我々希望ス
諾ス君等於テ同盟軍ハ右健全ナル軍人ヲ監
視スルノ責任ヲトラス希臘ハ中立國船舶ヨリ南
獲シタル戦闘員抑留付数多ク先例ヲ引用シ
テ其主張ヲ變更セズ中主國ハ一員トシテ戦闘
参加可能者又不可能者ヲ区別セシメ不可能者

總陸海參軍

婦人十人、其希臘、船ニ出、被セシムルコト
ヲ提議シ希臘、同意ヲ得タリ可能者、収客
就テ至急右可能者、収客ヲ伊國ニ依頼セ
レタレ伊國健全ナル報聞、ハト下ニ多分、承諾
スナリ、右〇Thomson、欲スル所ニシテ希臘、客
認スルコト、日本政府、承諾ヲ待テ、右準
備ニ取掛ルヘレ伊國、承諾、事件速決、良法
ナリ以上
就テ貴國政府が右案ニ同意セラレコトヲ希望ス
然ラズ不幸ナル俾旁、辛苦、永リナルヘレ至急
電報ニテ御同意ヲ待ツ英伊、轉電ニタリ

附屬書類添附 大正十年七月廿七日接獲 駐歐齋 第三課 天頭 龍馬 大正十年七月十七日		次官 受23588		要旨付了		本件一 伊和佐トノカノ成行ヲ見テ修係スハトシテ至	
土耳其俘虜給與ノ件照會		大正十年七月廿六日 陸軍次官 尾野實信		外務次官 植原正直 殿		首題ノ件ニ關シ土耳其俘虜輸送監督將校津村中佐ヨリ別紙甲ノ通申 越候處當方ニ於テハ所要經費ノ支出ニ應シ難ク候條關係政府ニ對シ 可然交渉方相煩及照會候也	
追テ津村中佐ニ對シテハ別紙乙ノ通電報致置候條申添候		陸軍		軍		陸軍	

28588

電報譯

七月十九日午前八時五十分發

陸軍次官宛 發信者 津村中佐

存屬ハ(不明)長キ抑留船内生活ノ苦痛特ニ日用
品金錢ノ缺乏ノ爲窮乏ヲ極メ軍紀ハ頓廢シ
將校ノ威令行ハレス各種事故續出ス現況寒
心ニ堪エス之カ救済ノ一策ハ先ツ金錢ヲ與フル
ニアリ既ニ土耳古政府ニモ赤十字社ニモ告ケ又
帝國政府ニ對シ陸上存屬ト同額ノ手當支給
ヲ要求シ丹田公使其他日本官憲ニモ此目的
達成ノ援助ヲ乞ヘルモ其効ナシ
今ノ窮迫ニ對シ應急處置トシテ各人ニ三十法郎
陸軍
本金額五圓ヲ支給シ得ハ差當リ焦眉ノ急ヲ
救ヒ得ヘシ特ニ御配慮ヲ乞フ也

乙

大官ヨリ津村中佐一電報案

土耳其僑屬給與ノ件了承。當方ニ於テハ所要経
費ノ支出ニ應シ難キヲ以テ關係政府ニ交渉方
外務省ニ依頼シ置ケリ。僑屬ノ引渡ニ関シテハ
折衝ノ進捗ニ伴ヒ最初指定セル居留以外ノ地ニ
上陸セシムルノ已ムナキニ至ルコトアルヘキモ其ノ地點
引渡スヘキ對手段爾後ノ監理等ニ就テハ豫テノ
訓令ノ主旨ヲ体シ出先ノ外務官憲ト連絡ノ上
機宜ノ處置ヲ講セラレ度

陸
軍

5-0643

0045

大正十二年七月廿七日

THE KATSUDA STEAMSHIP Co., Ltd.
KOBE

COPY

INWARD TELEGRAM.

From s.s. "Heimei maru"
Piree

Date 21/7 (7.30 p.m.)
25/7 (10.30 a.m.)

大正十二年七月廿七日
記録係受

KOKSAIRENWEIIN TOCHINIKITARI SENTOINNOMIO
ITARINIWATASHI TEHONSENOKAIHO SURUYOMOKKAKO
SHOCHUNARIYUKI HENKAARISHIDAI DENPOSUBESHI

HEIMEIMARU

平明丸
次第電報スベシ
リ行キ變化アリ
様目下交渉中成
本船ヲ解放スル
リ「ニ渡シテ
員ノミヲ「イタ
地ニ來タリ戦闘
國際聯盟委員當

大田



5-0643

0046

大臣

次官

電信課長

電信室(略)

歐米局長

第二課

電送第 6166 號
大正10年7月28日 午後2時20分

在土 内田大臣
内田公使

第二四號(至急)

大正二年參月廿七日 記 録 係 留 印

貴電第五二號ニ関シ

貴官殿々ノ盡力ニ依リ貴地英佛伊

外務省

高級委員ニ於テ希臘高級委員ニ

對シ土耳古俘虜ノ無条件釋放ヲ求

ムルニ互リタル處希臘ニ於テ現ニ「アングラ

側ニ對シ攻勢ニ出テ居ル今日容易ニ右要

求ヲ承諾セサルハ本件交渉モ意外ニ長

引キ艱主ノ損失、俘虜ノ衛生状態等

ニ顧ミ一日モ早ク解決ヲ要スルニ付貴

官及聯合國高級委員ノ對希臘交渉

陸(見玉)

6166 28/7 8 4.20

夕側面ヨリ援助スル爲石井大使ノ稟
 申ニ基キ聯盟理事會ヲレテ在「ジュネ
 ーヴ」石井大使宛第一一二號ノ通決
 儀セシムル標榜主方合大使ニ電訓レ
 置キタル處聯盟理事會ハ「ジュネーヴ」
 發令大使來電第八號ノ通決儀ニ
 「ナンセン」博士ニ於テ既ニ其ノ實行ニ着
 手スルニ至リタル次第ナリ^{ルカ}一面伊國政府
 外務省
 ニ於テ伊玉ノ一港ニ平明丸ヲ入港セシム
 ルヲ就キ我依頼ヲ一旦拒絕シタルモ今
 日聯盟理事會ハ伊玉收容案ニ就
 キ合玉政府ニ交渉スルヲトナリタル趣旨
 姑ク右交渉ノ結果ヲ待ツコトトシ第一伊
 國ニ於テ承諾セサル場合^{結局}ニ「ジュネーヴ」ニ
 島抑留案ヲ實行スルノ外ナカルヘク其ノ
 節ハ改メテ何分ノ訓令ニ及フヘシ者ナ

何レノ場合ニ於テモ監獄官將校ノ執ルヘキ
措置ニ就テ陸軍省ヨリ追テ訓令スル
答

在英佛伊各大使ニ轉電アリタレ

外務省

電信課長

電信課長 (平)

第二課

歐米局長

電送第六一四四號
十年七月二十日

在佛

内田大臣
石井大使

第六九九號

大正二年參月廿七日記錄係接受

陸(見至)
介

貴電第一二三號 在英伊各大使
及在土公使轉電アリタシ

外務省

5-0643

0050

Yokohama, le 25 Juillet 1921

LEGACION DE ESPAÑA

TOKIO

No-35.

受23755號

Monsieur le Ministre,

N'ayant pas encore reçu de réponse à la Note
que j'ai eu l'honneur d'adresser à Votre Excellence en date
du 8 Mars dernier, concernant le sujet autrichien Herrmann
Poerbacher, qui, en 1917, se trouvait encore comme prisonnier
de guerre au Camp de Beresowka, en Sibérie, je viens prier
Votre Excellence de bien vouloir me faire parvenir les
nouvelles qu'à ce sujet puisse avoir reçu le Gouvernement
Impérial, afin que je puisse donner des éclaircissements
demandés à cette Légation Royale.

Veillez agréer, Monsieur le Ministre, les assurances
de ma plus haute considération

Jose Caro

Son Excellence

Monsieur le Comte Y. Uchida,

Ministre des Affaires Etrangères.

大正十一年七月二十五日
受23755號
日本外務省
大正十一年七月二十五日

大正十一年七月二十五日
受23755號
日本外務省
大正十一年七月二十五日

大正十一年七月二十五日
受23755號
日本外務省
大正十一年七月二十五日

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約



10月52 (暗)

羅馬癸

本省着

内田外務大臣

落合大使

大正十年七月廿八日

廿日 前二五五

主政

臨時政府の存続が
在る限りは、臨時政府の存続が



第二三三號

平明丸ノ件ニ關シ七月廿五日附書ヲ以テ當
地英國大使館ヨリ大要左ノ通申越シタリ
在雅典英國公使ヨリノ電報ニ依レバ國際聯盟
一及ビ万國赤十字代表者ハ平明丸ノ俘虜解放
方盡力ノ爲雅典ニ到着シ先ツ第一ニ健康診斷
ヲ行ヒ健康者不健康者トヲ分離センコトヲ提

陸海參軍

第24門

議シタルガ希臘政府ハ一切ノ強健ナル
婦人小供及ビ赤十字員ヲ直ニ解放シ希臘船
ニテ君府ニ送還スルノ期アル様右以外、モ
ノニ付テハ伊太利政府ヲシテ同國ニ一部ヲ送
致スルノ提議ニ付舉行セシマル様致シタシト
ノコトナリ而シテ英國大使館ハ右ノ事項ヲ日
本大使館ニ通知シ協力シテ伊國政府ニ再ビ交
渉スル様訓令ヲ受ケ居レリ本件ニ付日本大使
館ニ於テ現ニ何等カノ措置ヲ執シレタリヤ否
ヤ承知シタシ云々

右ニ付、藤井ハ直ニ英國代理大使ト打合セタル上廿六日外務當局者ニ面會シテ英國大使館來函ノ内容ヲ詳説シ先ニ伊國政府ガ困難トシタル内政點ノ事由今ヤ除去セラルベキニ付最近本使ヨリ外務大臣ニ対シ建ベタル通本件ヲ再考シテ可成ク速ニ伊國港ヘノ入港ヲ承諾セラルル様致シ度キ旨ヲ語リ至急何分ノ回答ヲ得ルコトトナリ居レリ將タス英國代理大使ヨリモ既ニ外務大臣ニ事情ヲ詳述シ再考方ヲ申入レタル趣ナリ尚外務當局者ハ藤井ニ対シ經

費負擔者如何ノ問題ハ本件解決上重要ナルベシト、口吻ヲ減シス當地ニ送致セラルベキ人員ノ確定數ヲ承知シ度キ旨申タリト、コトニ付在佛大使宛貴電第六七六號ノ件速ニ當方ニ轉報ヲ得ル様致シタシ
英佛大使ニ轉電セリ

電信課長

大臣

次官陸

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

10946 暗

羅馬農大正十年七月廿八日迄一〇、
主省署 令 三十日 前一二、二〇

主政

（要旨付）

内田外務大臣

法合大使

第二三四號

往電第二三三號に因し

今二十七日英國大使館より更ニ左ノ通り通款
に來しり

伊國政府ハ本件ヲ再考スル前、先以テ國際聯盟
又ハ赤十字ニ於テ當該停屬ノ伊國ニ於テハ
給養費用責任ヲ執ラルルノ準備ナリヤ否ヤ
又若シ然ラサル場合ニハ右ニ付如何ナシ措置

總陸海參軍

ヲ執ラルルハ必要ナリヤヲ承知シ又キ旨主務省

ヨリ書面ヲ以テ申述シタルニ付英國大使館ハ

府、同シ必要ナル通報ヲ受クハ為倫敦及雅典

ニ電報ニタリ

英佛ニ轉電

大臣

大官

電信課長

電信課

歐米局長

歐米第二課

電送第大ニ七ニ第
延十一年八月一四七時分

大正五年八月十七

在伊 内田大臣
落合大使

第八九號

貴電第二二三三號ニ関シ

藤井書記官ハ伊國外務當局ニ對

外務省

レ平明丸ノ全五入港者承諾書申入タル

趣ノ意ハ今日聯盟理事會依頼ノ如ク

伊玉内ニ土耳其沿岸ノ收容監視ヲ令

政府ニ於テ承諾スル様御事ニ於テ

却望スル次第ナリ付申候解ナキ

様御事ニ對シテ今説明シ置カレタル

又伊國沿岸ノ場合給美良貴ヲ土耳

古政府ニ於テ負擔スヘキハ在君府英

△
ナニヤレトナ
ハ米トナ
脈係トナ
ノ係トナ
瓦底トナ
手取トナ
ルナ
リナ

陸
2/8

佛伊三國高級委員提出シタル書面
ニ於テ土耳其外務大臣ノ既ニ言明セル所
ナリ(本大臣宛在土耳其内田公使来電
第四一號末段)為念
在英佛各大使及在君府内田公使へ
轉電アリタル

外務省

大臣
決宣

陸軍
協議

電信
局長

歐米局長

歐米二課

大正三年三月廿七日記録係受

廣
在居海内
田公使
大臣

第
一
號

貴電第六九號一閱

大多數ノ土耳其俘虜ハ平明九ヲ以テ

伊國ニ輸送スルモノハ成ルハ之ニ

多數ノ監叔目者ヲ附添ハシムルノ要ア

ルニナラス且ニ君府ニ送還セラルハキ

明在東塞ハ聯盟ニ於テ本年七月政府

東塞ニ希脱船ニテ輸送スルモノナルコト

在佛大使來電第十一号第一

一三九號ノ由ナルヲ以テ公使ニ監叔目

將校ヲ右輸送者ニ附スルノ要ナカルヘシ

5/8/10

5-0643

0058

右津村中佐へ転電アリタシ
左佛大使へ転電アリタシ

外
省

5-0643

0059

西國公使より別紙で文通する事。聖慮中此の事有之
た。付番曲に御了意。上何令儀御回奉る。大
文此後中此也。

別紙内田右近衛七月二日附在右邦西國公使
青翰譯文里添付。

譯文 大正十一年七月二十五日

在赤松 西國公使

内田外務大臣宛

(壇國人保護)

以書翰致致上外陳者予九百十一年中當出西比利西

ヤレツカ村 *Buclovka* 軍官之係屬者之壇國臣

民 *Jedermann Deutsch*

一個前使 *Preinbacher* 一併之書三月八日附以

附以

テ閣下宛照会ニ付未タ御回報ノ様ニテ知
當館宛照会ニ付誤明ニ付テ得テ御返答
ニ付御件御手書未タ有リテ御通報
煩ニテ右御返答未タ使ニテ望ミ閣下
向テ改善表ニテ改具

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

主政

君府發

大正十年八月四日

11163 平

本府着

内田外務大臣

内田公使

才大七号

三十日 平明丸 津村中佐より左通来

有アリ

七月二十四日 赤十字萬國委員 McCallum 氏アリ
氏アリニ来リ 國際聯盟 名ニ在テ 伊府
中婦人軍醫 不具者等ヲ 解放 君府ニ
送り 他 伊太利 監理 移スベク 交渉中
ナリ 同氏 言 依ニ 邦國政府 之ヲ 承
總陸海參軍

若シ 不日 到着スヘキ 伊國政府 監理 承諾
ノ 公報ニ 即時 平明丸ヲ 伊國ニ 廻航ス
ベリ 多分 今後 二週 間ヲ 出ダサルヘシト
ト 官ハ 不具者 調査 其他 準備ヲ ナシ
ツアリ
英山 伊ハ 轉電セリ

第24門

平和條約

文書

會計

人事

情報

條約

通商

歐米

亞細亞

次官

大臣

電信課長

11月7日 晴

君府殿大正十年八月三日午後六時
主省署 在 四日、八、四日

内閣外務大臣 内閣公使

第六九院 (急)

往電第六八院津村中佐電報に依りハ
聯盟派遣員ノ屬置大ニ進捗致せんハ
送還ス一キ平明九条答ハ平明九ヨリ聯盟派遣
員ニ引渡シ聯盟ヨリ更ニ五耳右ニ引渡スコト
トナルモノナリヤ若シ然ラバ初メ輸送シ引受
タハ日本ヨリ直接ト有右ニ引渡スモノナリト
モハ監督持校中野ノモ一人ハ送還者ニ付

陸海參軍

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

11月6日 平

東京大正十年八月三日午後二時
主省署 在 四日、四、二、五

主官

内閣外務大臣 内閣公使

第六八院

二日平明九津村中佐ヨリ九ノ通來電アリ
一日伊國公報到着ス三日迄ニ検査ノ畢ハ
五日婦人子供ヲ府ニ送り残餘ハ六日伊國
ニ向テ出帆スル豫定承知アリ
美仁伊、轉電セリ

陸海參軍

陸海參軍ノ任務ヲ
在 四日、四、二、五

主官

添来ハ必要アルト思考スル急遽御回電
リタル在ビシイ津村中佐ノ下然所電報
リタル
在仏大使、轉電セリ

電信課長

11月13日 午後九時

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

内田外務大臣 内田公使

11月13日 君府発 大正十年八月 午後九時
本省着

第八。群
平明九搭載土耳其人ハ結局國際聯盟理事會決
議原ヲ取計フコト成リタルニ就テハ土耳其當
局ヨリ右取計方ニ同意ノ公文ヲ取付置、事必要
ト思考シ二日土國外務次官ニ對シ口頭ヲ以テ右
決議ノ大要ヲ告ケタル處土國外務大臣ヨリ八月
三日附ヲ以テ大要ヲ記公文ヲ送致シ越セリ
平明九搭載土耳其人ニ関シ希國政府ハ國際聯盟

總陸海參軍

理事會ノ仲介ニ基キ(一)婦女小兒衛生班員及戦闘不能者ヲ即時解放シテ希國船ニテ君有ニ送還シ
ニ他ハ希土戰爭終熄迄中立國乃至中立地域ニ抑
留スルコトヲ承諾シタル趣ヲ承知セリ
土國政府ハ前記第三項ノ土耳其人ヲ君有ニ送致
レ聯合國監視ノ下ニ置ルコトヲ最も適當且公平
ト思考スルモ平明丸搭載土耳其人ノ苦痛ヲ此ニ
遷延セシムルニ忍ヒサルニ付君有ニ帰還シ得テ
ル者ヲ伊國ニ抑留スル事ニ同意シ右折爲、要ス
ル給養費ヲ負担スヘシ(後略)
英獨伊ハ轉電セリ

電信課長

電信課

歐米局長

收

歐第二課

第三課

大臣
決官仕

人事課長

秘書

係

内田大臣

會計課長

在伊

落合大使

第九一號

大正二年三月廿七日記錄係接受

陸軍
陸軍
陸軍

陸軍
陸軍
陸軍

在土耳其内田公使來電第六七號
及第六八號、據ハ伊王政府ハ

外務省

土耳其僑民ノ自玉内收容監視ヲ

承諾セルモノ、如クナル處、右果シテ奉

實ナルコト、於テハ貴彼方ヲ收容地、

派遣シ監督將校ト協力、上伊王官

憲トシ應待等可然取計ハレメラレ

在佛大使及在土内田公使ハ轉電アリ

タシ

電送第 6374 號
大正 10 年 8 月 5 日 15 時 15 分發

第 1085 號

5-0643

0068

大臣

大田

陸軍省
陸軍大臣
陸軍省
陸軍大臣

陸軍省
陸軍大臣

電信(暗)

歐米局長

第一課

在府内田大臣
内田公使

要旨付了

電送第6378 暗
昭和十年八月六日 暗 0時5分

第二六号

貴電第六九号に關し

希照ヨリ直ニ君府ニ送還セラルヘキ者

外務省

ハ聯盟ニ於テ希照船ニテ輸送スルモノナル
ト在佛大使来電第一三九号通
ナル處是等ノ者カ無事君府ニ帰
着スルヲ見窺ムルコトハ我方ニ取リテモ
望マシキ次第ナルヲ人繰リ付クニ於
テハ監督者校人ヲ監督者ノ名義
ヲ用キス軍ニ右目的ノ為帰還者
附添ヒ君府ニ赴カシムル様可然ハ取

6378 8/8 0.40

5-0643

0069

什アリタレ

伊 津村中作 轉電 参考ノ為在傳

大使ハ 轉電アリタレ

外務省

5-0643

0070

大 臣
次 官

歐米局長

第二課

印

津村少佐より陸軍省へ到達セル

電報 (八月六日午前六時発)

(八月十日豊島大村より電信)
(通電アリ)

八月六日不具名婦人共三百九十二名ヲ

國際聯盟委員に引渡シ希臘船ニテ

君府ニ出発セシメ俘虜中希臘人八名ハ

外務省

希王政府に交付セリ残餘ノ者ハ伊王政

府より許可ノ通電アリ次伊王政に輸送

ノ旨

5-0643

0071

No. 43.

IMPERIAL JAPANESE CONSULATE

MALTA.

3rd May 1921.

(手
宛
丸)

大正十年八月六日 接

主
管
區
署
第
二
課

受24556號

Monsieur le Ministre,

In continuation of my letter of
the 12th ult. I have the honour to inform you that the
Naval Commander-in-Chief has communicated to me his
regret as to the impossibility of passing your wireless
message to the "Heimei maru", although several attempts
were made.

I have the honour to be,
Monsieur le Ministre,
Your obedient servant.

For Howard
Hon. Consul.

His Excellency

H. I. J. M's Ambassador

LONDON

大正十一年三月廿七日 記録係受

存
者
了
係
主
管
區
署
第
二
課

5-0643

0072

附屬書類添付

大正十年八月六日 發受

駐歐公署

第二課

公第一三號

大正十年七月四日

在英

特命全權大使男爵林權助

要旨付

次官

外務大臣伯爵内田康哉殿

大正二年參月廿七日記錄係受

平明丸閣下當國外務大臣來信送附一件

往電第七九九號閣下別紙當國外務大臣來信与御

参考迄及送附京條御査收閣下成度京敬具

在英國日本大使館

5-0643

0073

June 30th 1921.

Your Excellency,

In reply to your note No. 104 of the 27th instant. relative to the steamship "Heimei Maru", I have the honour to inform Your Excellency that in accordance with your request I have instructed His Majesty's Ambassador at Rome to support any request which his Japanese colleague may make for the "Heimei Maru" to be allowed to remain in an Italian port during the negotiations at present being conducted between the Japanese and Greek Governments.

2. As regards the conditions prevailing among Turkish prisoners, I have the honour to inform you that at the request of the Japanese Government His Majesty's Minister at Athens instructed His Majesty's Consul at the Piraeus to proceed on board and conduct an enquiry. His Majesty's Consul reported that the captain of the ship complained only of a shortage of coal, into which a Greek Officer who was present promised to enquire, and of the normal deterioration of the vessel for which the Captain stated that he presumed the Greek Government would eventually pay. The Turkish officers complained of general discomfort, of the food and lack of soap and of defective sanitary arrangements. The Captain, however, considered that the food was sufficient, as it was similar to the rations supplied to Greek troops. He agreed that the sanitary arrangements were not good and would become worse during the hot weather. The Captain stated that medical stores were hardly adequate but that there were only seventeen cases of sickness among the whole number of the prisoners. These included several cases of consumption but no infectious diseases. One Turkish woman and one Turkish prisoner who had been condemned to cells had

both been rescued. His Majesty's Consul was able to speak freely with the Turkish officers in Turkish and obtained the impression that there was nothing of great importance wrong with the condition of the prisoners. The Turks whom he saw look healthy although somewhat miserable.

3. I have the honour to add that the substance of the report of His Majesty's Consul has been telegraphed to His Majesty's Ambassador at Tokio for communication to the Japanese Government.

I have the honour to be with the highest consideration,
Your Excellency's most obedient,
humble servant,

(For the Secretary of State)

LANCELOT OLIPHANT.

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

11302 羅馬書 大正十年八月 七日 三三
本省着

内田外務大臣 二階合大使

第四四号 (五日午後七時)

外務大臣首相ト其ニ六日出張在巴里ノ最高
會議ニ赴ク由ニ付五日往訪ニタリ所同大臣
ハ往電第二三四号ノ回答トシテ平明ニ其
後再詮議ノ結果當方ノ希望ニ通同船搭
載土耳其俘虜ノ伊同ニ来ルコトヲ許可ス
コト、考ヘタリト述ベタルニ付本使ハ考念貴電
九号前段ノ其ニ付説明ニ置キタリカ大臣ハ
何レ詳細ノ事ハ *Autrefois Maritime* 指置テ講

陸海參軍

タルコト、ナルベシト述ベタリ尚書電第八九号
ニ付シテ其ノ中ニテ伊国外務省ニ文送セシメ
タルハ本件局面ノ变化ニ鑑ミ往電第二
三四号本使ノ外務大臣ニ計面再考希望ヲ更
ニ申入レタリ迄ニテ所来示ノ其ハ理ニ先方カ
英國大使館ニ給差費補償ヲ立降セシニ徴
スルモ (往電第二三四号) 先方ニテ誤解ナキ
答ナリ將又結差費員權者ノ土耳其政府
ナルベキコトモ先方ニ於テ了解シ居レリ
英佛、土ハ轉電セリ

電信課長

大臣

次官

亞細亞

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

第24回

昭和十一年八月七日
在東京外務省
在東京外務省

11366 (平)

維納登
本省署

大正十一年八月七日
八日前二

内田外務大臣

本多公使

第ハ五號

浦潮洲留學國俘虜送還ノ件ニ關シ先ニ御回訓ノ
通り壕國政府へ回答シ置ケル處八月三日附ヲ以
テ帝國政府ノ懇篤ナル態度ニ謝意ヲ表シ同時ニ
左ノニ點帝國政府へ轉達ヲ依頼シ來レリ
(一)在維納登傳虜事務局ハ在浦潮日本官憲ニ對シ可
成ク面倒ヲ勤カラシメ度キ希望ニテ元 Gutsch
及ニ Von der Helten 傳虜 mission 附秘書兼
納掛タリシ Francois Thoenemel (目下浦潮ニ

定住捕漁ニ從事スヲ日本官憲ノ使用ニ脱
事ニ決定セリ同人ハ當該事務ニ精通シ居ルニ付
日本當局ニ於テ俘虜送還ニ關スル一版ノ難務ニ
同人ヲ使用スル事トシ日本當局自身ノ斡旋ハ主
トシテ地方官憲ニ對スル壕國俘虜ノ利益代表並
ニ保護ニ限ルコトトセラレシニハ好都合ト存ス
(二)俘虜送還費ニ關シテハニ月前上述ノ Thoenemel
ニ對シ半貨貳千弗ヲ在浦潮日本代表者ニ引渡ス
ベキ事ヲ訓令シ置ケルニ付日本當局ニ於テ右
Thoenemel ノ申出アル都度俘虜
救助及ビ送還ニ必要ナル金額ヲ同地ニ交付セラ
レ度ク右資金支出シ盡サレ且當該支拂計畫書到

達次第埠國政府ハ帝國政府宛右以後ニ必要ナル
金額ヲ納付スベキコトヲ約束スル次第ナリ
以上ニ點帝國政府ヨリ在浦潮帝國當局ニ傳達
アリ度シ *The number* ニ付シテハ 上述ノ次第訓令済
トノ事ナリ

大臣

大官



外務大臣

大正十年八月八日

第二課

歐米局長 八月十一日 大田東次郎 宛 提出

陸軍大臣

山梨半造殿

太洋汽船株式會社
取締役社長 勝田銀次郎

大正十年八月十七日 記録係接受

一土耳其停廢輸送汽船平明丸抑留ノ件

拜啓時下極暑之砌閣下益御勇健ノ段邦家ノ爲慶賀此事御座候陳者頭書汽船抑留ノ件ニ關シテハ引續キ御省並ニ外務遞信兩省ノ不一方御高配ヲ忝ウシ感銘ノ至ニ不堪候同願スレバ本船ガ土耳其停廢輸送ノ恩命ヲ拜シ本年春初浦鹽港ヲ發シコンスタンチノールブルヘ向ヒ不幸多島海ニ於テ希臘水雷隊ノ爲拿捕ノ厄ニ遭遇シタルハ去ル四月五日ノ事ニ屬シ爾來今日迄實ニ滿四ヶ月關涉方面ノ多岐ナル亦外交事情ノ複雜ナル幾多ノ御盡力ニモ不拘豫想外ノ長日月ノ抑留ヲ見タルコ

ト返ス返スモ遺憾ノ極ニ御座候然ルニ最近外務省着ノ情報並ニ本船々長報告ヲ綜合スレバ國際聯盟委員ノ仲介モ有之旁サシモ紛糾ヲ重ネタル本件モ此程漸ク一條ノ曙光ヲ認ムルニ至リ結局健康停廢ヲ中立國伊太利ニ揚陸シ本船ヲ釋放スル事ニ決定セル模様ニシテ之皆當局御盡瘁ノ賜ト只管感佩罷在次第ニ御座候唯伊太利回船ハ云フ迄モナク目的地ノ變更ニシテ揚陸地點如何ニヨリテ可成ノ航路延長ヲ伴フ可ク從テ弊社ノ蒙ル損害費用モ増額可致候ニ有之候ヘバ本船々長ヨリモ處置ニ窮シ本社ノ指圖ヲ乞フ旨申越候處弊社トシテハ終始一貫御省ノ御方針ニ遵據シ來レル關係上今更出費願慮ノ暇ナク萬事監督將校ノ命ニ從ヒ伊太利向ケ出帆ス可キ様電命致置申候乍併前記長時日ノ滞船ニ加ヘテ斯ル契約外ノ費用ヲモ弊社支出ニ任ズルハ海運界悲境ノ際重ネ重ネ難忍苦痛ニ有之前以テ御省ノ御填補懇願仕候處御省ノ御意嚮トシテハ該出費ハ抑留損害金ニ加算シ他日詮議可被下思召ニテ弊社東京出張所ヲ通シ

テ御内閣ニ預リ候趣御恩命ノ次第難有拜承仕候
猶本件ニ關シテハ茲ニ四月二十一日附經理局長田中政明殿宛並ニ五
月十四日附陸軍大臣田中義一殿宛兩度ノ書面ニテ續々陳述仕置候條
茲ニ繰返シ絮說スルノ必要無之候得共元來本船拿捕ノ目的ハ搭載土
耳古俘虜ノ禁輸ニアリテ船舶ノ如キハ俘虜引渡ヲ承諾スレバ直ニ釋
放ス可キコトハ同政府ノ聲明ニ徴シテモ明カニシテ若シ商業的利益
ノ打算ヲ以テセバ之ニ應諾シテ損害ヲ未前ニ防止スルノ途無キニシ
モアラザリシニ不拘弊社ハ一ニ御省ノ御方針ニ從ヒ對外各般ノ交渉
ト臨機處置トヲ舉ゲテ御省並ニ乘組監督將校ニ一任シ逐日増大スル
滯船ノ損害賠償請求ヲ今日迄忍ビ來リ候苦衷特ニ御同情ヲ相仰グ次
第ニ御座候尤モ此點ニ關シテハ既ニ政府御當局ニ於テ充分御諒解有
之候事從來ノ成行上寸毫疑義ナキ所ナレバ敢テ拿捕抑留ノ場合ニ關
スル契約書第十一條追加項目ヲ引照シテ正式ニ賠償御請求申上グル
ハ寧ロ禮ヲ失スルノ虞有之弊社トシテハ單ニ前記抑留損害ハ伊太利

同航ノ費用ト合算シテ後日適當ノ詮議ヲ行フ可シトノ當局御内意ニ
信賴スルヲ以テ充分ト確信能仕候ニ付向後共何分御厚意御取計方懇
願ノ至ニ不堪候
追而近日本船任務終了ノ上ハ改メテ損害精算書作成提出可仕候間可
然御採決被下度豫メ奉敬願候
右得貴意度如斯御座候

恐惶再拜

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

第24門

外務省に於ける事務の概況

主文

君府發 大正十年八月十三日 前立

田田公使

田田外務大臣

1657 平

平明丸、土身古人中、戦闘不能
若衛生班婦人小見等三百九十九名
八月三日左舷よりサンセン博に派遣
員を引渡シ、土身古人、希臘船、オリンボス
号にて、一日君府に到着セリ
英佛に轉電セリ

陸海軍

此の如く、外務省に於ける事務の概況

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

第24門

1790 暗 本省著 大正十年八月十六日 后一ニ

内田外務大臣 落合大使

第255號 往電第二四四號に關し

十二日外務大臣官房員、藤井、内訖セル所
ニ據レハ、本使ニ對シ、外務大臣ノ回答ハ、官
房員ニ於テ之ヲ承知セサシ、趣ニテ、内務省側
ニ於テ之ヲ古、係屬ヲ收容ス可キ場合及ヒ、衛
生上ノ二点ニ付、尚ホ故障ヲ有スルニ付、既
ニ一件書類ヲ巴里ニ出張中ノ外務大
臣ニ郵送シテ、訓令ヲ請ヒタル（脱）相ニ

同地ニ居ル事ニモアリ 幸々数日中ニハ何
カ巴里ヨリ訓令アル可シトノコトナリ
右様ノ次第ニ付何分ノ儀確定スル迄ニ
ハ未ダ多クノ時日有之可ナリ
英佛王ニハ轉電セリ

電信課長

大臣

次官 佐

要旨付了

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

羅馬宛
左有看

大正十年八月
二十日午後四時五十分
至有看

三改

内田外務大臣

落合大使

十九日外務大臣ハ書記官ヲ當館ニ遣シ平明丸ノ
件ニ関シ關係各方面ニ種々難問題アリタルヲ總
テ之ヲ解決シタルハ唯費用ノ點ニ付未ダ解決セズ
サ決セハ實行セラルトナリ居ル旨説明セシタルガ
二十日午後大臣ヲ訪ヒ本件ハ又々行儀ミナタルハ意
外トモ思ハレタ事情ヲ知ス所アリタルカ大臣ハ答
ニ同船ノ伊國(来)下ヲ許シテ方針ハ毫モ変更セズ

總陸海參軍

大藏省ニ於テ係屬
大藏省ニ於テ係屬

唯其ノ実行即衛生及監督ノ設備並ニ費用負担ノ
事其ノ其筋々ニ於テ種々ノ難問生じタルガ費用ノ同
題ヲ除ク他皆故障ヲ除キ得テ即由國ノ計算依ル答
ニ伴フ費用一箇月約七十萬リラ位ヲ要シ且ツ其ガ何時
迄繼續スルヤ計難キコト又也ガ負担者ニ對シ確時
タル保証ヲ得ズレハ実行セシ難キコト付奉使ハ内田
公使電報四一號及七〇號ニ由テ日本政府ノ聲明ノ一ヲ
ケ伊國政府ニ於テ此點既ニ承知申サスヤト云ハレニ大
臣ハ固ヨリ疾ニ承知居リシモ伊國が主權政府ニ對シ有
スル債權ハ外ニモ多額アルモ拘ラス主權ニ干渉スル
義務ヲ果ス向政府聲明モ其ガ実行能力ニ信頼スル
能ハサル次第ヲ就六萬一十萬ニ於テ負担責ス

果シ能ハル場合ニ誰カ確実ナルニ於テ其責任ヲ引度
ムハ保証を得直ニ実行ス事得ベシ右ニ付何等カ方法無
キヤ同合サレ度ニ述ベテ奉使ハ付ハ今國際聯盟
理事會ノ關係より居ル次第ナリト擧多シ大抵然リ然モ
其ノ意ヨリモ費用申付何等カ答無キ次第ナリト答ヘテ就
ハ此點ニ付何等カ答無キ事又爲御注意ノ上何分ハ電
刑ヲ清ク吳佛ニ轉達ス

電信課長

電信課

(14)

歐米局長

第二課

大正十二年三月廿七日記録係接受

電	第	六	八	九	號
十	八	五	五	時	鐘

内田大臣

在リジュネーヴ
石井大使

第二八號

在伊大使來電第二五八號

関レ

外務省

本件ハ今日聯盟理事會對伊王

政府ノ問題トナリ居ル次第ニテ從テ

伊王側ノ惡念ニ付テハ理事會ニ於

テ当然考慮スル事ト思召スル付

貴官ハ聯盟理事會ヲシテ適當

ナル保障方法ヲ案出シ伊王政府ニ

對シ其ノ既ニ承諾セル土耳其停占力

收容監視ヲ實行方改メテ申入レシムル

不
急
27/8

大臣
大
官
長

④ 為平丸
 船長より
 去、依、船
 中、三、名
 フ、フ、ス、思、者
 リ、生、二、人、初
 ニ、上、船、後
 渡、込、ス、二、人
 大、船、出、ノ、健、康
 事、中、二、人、ハ
 常、病、者、ナ、リ
 内、見、込、△

標楷字を以てし保障方法としてハ土
 耳古政府タレテ毎月分若ハ数月分ノ
 収容費ヲ伊玉政府ニ前納セシムルカ
 如キ一策ナキカト思考
 豊々於テ耳古ニ支拂ハ連帯保体
 責ニ任スルモノトシカ如キ場合ニハ
 於テ右ノ割議決定ヲ要ス
 第ナリ
 外務省

付テハ從來ノ行懸心リ、鑑ミ英玉政府ニ
 於テ特別ノ尊重ヲ蒙ラレタキ上日令政府ハ
 申入ル標右英大使ニ電訓スルト共ニ伊
 玉政府ニ對シテモ船隻ノ健康船舶ノ損
 害等ニ顧ミ互急伊玉ノ港ヲ指定シ
 全港ニ平明丸ノ廻航ヲ承諾セラレタキ
 旨申入ル標右英大使ニ電訓ス
 夕リ

△
在英佛伊各大使及在土耳其公使へ
轉電アリタシ

外務省

5-0643

0085

COPY

THE KATSUDA STEAMSHIP CO., LTD.

TELEGRAM received from S.S. "Heimei-Maru", Piree. Dated 16/8(7.30p.m.)
Rec'd 19/8(3.15p.m.)

Lmadaitalyseifu yoririkuageko shiteisezumokka
remmeilinwohete tochiitalykoshi nitokusokuchuna
rebakonshuchuni washuppandekiru mikomikibayashi
koganomorikuni chibusunitenyu inserishuppanma
deni jenkaimiko minashihonsen kaihogonokoro
dempoaritashi.

Heimeimaru.

本船は伊予新島に於て
降揚貨物等あり
早下新島に於て
重化伊予新島に於て
荷役ありしに於て
出帆し今現在中
出帆し今現在中
本船は古賀に於て
「47」に入港し
出帆し今現在中
本船は古賀に於て
重化伊予新島に於て
荷役ありしに於て
出帆し今現在中

歐米局長

大正十一年八月十六日

米第二課

大正十一年八月十七日

5-0643

0086

要開回

文書課 長松原

大正十年八月十日起草
大正十年八月二十日號

大正十年八月廿六日接受
大正十年八月廿七日發還

主任

第一課

五

主管 歐米局長

収

植原次官

陸軍次官宛

西伯利亞殘留俄國俘虜送還ニ関スル件

本件ニ関シ蒙リ俄國政府ニ對シ貴省送還西發第六〇九號

趣旨ニ對シ在俄帝國公使ヲ經テ及回答置候處今般同公

事務

5-0643

0087

使ヲ經テ帝國政府ノ總體ニ態度ニ謝意ヲ表シ同時ニ

三ホレ中紙ノ外方ヨリ入レリ

左記ニ點帝國政府ノ轉達方依頼シ來リ候趣ヲ傳テ了

承相度此致申進候也

(一)在維納停處事務局ハ在浦潮日本官憲ニ對シ可成面倒

ヲ計カラシメ度キ希望ニテ元 *Geitach & Co. von der Vellen* 停

處 *Mission* 附秘書兼出納掛タリシ *Francois Gaermann*

(目下浦潮ニ定住捕漢ニ從事ス)ヲ日本官憲ノ使用ニ從ヒル

事ニ決定セリ 同人ハ當該事務ニ精通シ居ルニ付日本當局ニ

於テ停處送還ニ關スル一般ノ難務ニ同人ヲ使用ス事トシ日本
當局自身ノ斡旋ハ主トシ地方官憲ニ對スル墾國停處ノ
利無代表並ニ保護ニ限リトセラシニハ好都合トス

(二)停處送還費ニ關シハ二月前上述ノ *Geitach* ニ對シ米價

ニ付弗ラ在浦潮日本代表者ニ引渡スベキ事ヲ訓令シ置ケルニ

付日本當局ニ於テ右 *Gaermann* ノ申出ル都度停處事務

助及ビ送還ニ必要ナル金額ヲ同人ニ交付セラシ度ク右資

金支出シ盡サレ且當該支拂計算書到達次第墾國政府

外務省

ハ帝國政府宛右後ニ必要ナル金款ヲ納付スベキコトヲ約
束スル次第ナリ

尙 *transmitted* ニ對シテハ上述ノ次第訓令濟トノコトニ有之候
間此致申候也

文書課
長檢印

大正拾年八月廿六日接受



大正十年八月十日起草
大正十年八月廿七日程送附

普通第四號

主管 歐米局長

主任 第一課

内田大臣

在浦潮期總
松島政務部長宛

大正十年八月廿五日記錄係接受

西伯利亞殘留埃國俘虜三箇名件

本件三箇ニテハ六月二面日附歐一普通第十三號ヲ以テ

申達置候處今般在埃公使館ノ電報ニ依ル埃國政府

5
2
0

同公使ヲ經テ帝國政府ノ懇望ナル態度ニ謝意ヲ表シ
 同時ニ左記ニ照會帝國政府ハ轉達力依頼シ來リル由
 (一)在維納俘虜事務局ハ在浦潮日本官憲ニ對シ可成ク
 面倒ヲ計カレシメ度キ希望シテ元 *Freitag* 及ビ *Van der*
Mullen 俘虜 *Mission* 附秘書ニ兼出納掛タリ *Francois*
Macmurd (且浦潮ニ定住捕漢ニ從事ス)ヲ日本官憲
 ノ使用ニ從ヒルコトニ決定セリ同人ハ當該事務ニ精通シ
 居ルニ付日本當局ニ於テ俘虜送還ニ関ル一般ノ雜務ニ

同今使用スルコトトシ日本當局自身ノ斡旋ハ主トシテ地方官
 憲ニ對シテ捕國俘虜ノ利益代表並ニ保護ニ限ルコトト
 セラレシハ好都合ト歟
 (二)俘虜送還費ニ關シテハ三月前上述ノ *Freitag* ニ對シ
 米債貳千弗ヲ在浦潮日本代表者ニ引渡スベキ事ヲ訓令
 シ置ケルニ付日本當局ニ於テ右 *Macmurd* ノ申出テ都
 會度俘虜救助及ビ送還ニ必要ナル金款ヲ同人ニ交付
 セラシ度ク右資金並ホシ盡サレ且當該支拂計以果書

到達次第、樺國政府ハ帝國政府宛、右以後ニ必要ナル金
額ヲ納付スベキコトヲ約束スル次第ナリ

右御子承相、前度此段申進候也

高松(Alameda)ニ對シテハ上述ノ金ヲ訓令濟トノ事ニ

有之候

電信課長

大臣

次官

亞細亞



歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

本館より各府県へ
送付中
昭和十一年八月

一ニハロ
暗

本館より各府県へ
送付中
昭和十一年八月

外務大臣

石井大使

第二十七號

貴電第二十八號ニ關シ

早速「ドウモ」氏ト相談シ工部省政

府ラニテ費用前知セラル最善ノ方

法ト認メナシヤン博士ニテ右工部省政

府ノ交渉セラルコトセリ
工部省英佛軍ハ輕電セリ。

功於就學也
在石比利立
功於就學也

一三〇五
暗

シネーカ
署
志
二十一年八月
三十一日迄。以上

田外務大臣
石井大臣

平明

第 24 回

陸寓公

第一ノ號
貴賈第一ノ號ニ關シ
早速「ドウミンド」氏ト相談シテ耳古政
府ラニテ費用前知セシムルヲ最善ノ方
法ト認メ「ナンヤン」專士ラニテ右ノ耳古政
府ニ交渉セシムルコトニセリ。
耳古英、佛、伊、ハ輕賤セリ。

シエネフ
石井隆事

(八月二十九日 着)

大正二年三月廿七日記録係接受

第一七号

貴電第一一八号、到レ

早速、ドナモント氏ト相俵シ土耳古

政府クレテ費用ヲ前納セシムルヲ最善

ノ方法ト認メ、ナレセシ博士シテ右土耳

外務省

古政府ヘ交渉セシムルヲトセリ

土耳古、英佛伊ハ紛合セリ

天皇

電信局長

歐米局長

歐米二課

堀方

電送第 7/3/ 號 時 分
大正十年九月三日 四時四分

手書きメモ

在土 内田大臣

第二九號

大正十年參月廿七日記錄係接受

在「ジュネーヴ」石井大使來電第一七
號、関レ

外務省

我方に於てハ土耳其俘虜ノ幸福
を顧念シテ之カ收容監視方ヲ律事改
升格カ交渉ノ結果漸ク其ノ承儀ヲ見
ルニ至リタルニ貴州問題ノ為又、以テ惱ノ模
様ナル處最近「ビレウス」ヨリノ電報ニ據
ルニ平明丸船長ハ病氣ノ為入院シ船中
中ニ之數人ノ病人発生シタル趣ニテ此上
本件ノ解決遷延スルニ於テハ或ハ全船

Constantinople 7/3/

於テ土耳其俘虜ヲ伊玉ニ輸送シ得
サルカメキトナルヤモ計リ難キ付此
際土耳其政府ニ於テ速ニ聯盟理
事會ノ申出ヲ承諾シ伊玉側ノ俘虜
收容實現リテ容易ナラシムル様土耳其政
府ニ篤ト懇心談セラレタレ
在ッジュネーヴ石井大使、在英佛伊各
大使ハ轉電アリタレ

外務省

大臣

電信

(略)

歐米局長

第二課

大正十二年三月廿七日 記録係受

廣

在英

内田大臣

林大使

第 五 號

在伊大使來電第二五八號、後

レ

外務省

不取敢聯盟理事會ノ考量ヲ求

ムル様在「ジュネーヴ」石井大使ニ電訓

レ置キタルカ「ジュネーヴ」宛往電第

第五

號(本件ハ既ニ數月ノ日子ヲ経過

シ船主ノ損失船舶ノ損害等ニ

顧ミテ解決スルノ要ナルニナラス

處ラモ一日モ停ク適當ナル場所ニ安住

ルモノト人道上堅決ノ事ニ爲スルヲ以

才實審小某と政府と對し在次矛
述へ全政府從來ノ行縣志リニ鑑ミ本件
付テハ特別ノ考慮ヲ拂フ様聯盟理
事會ニ於テ全五代表者ニ訓令方依
頼シ並カレタシ

在「ジュネーヴ」石井大使、在英佛伊各大使
及在「同」土平古公使へ轉電アリタシ

外務省

大 臣

次 官

電 信 局 長

歐 米 局 長

第 二 課

大正十二年參月廿七日記錄係後受

廣

在 伊 內 田 大 臣
落 合 大 使

第 一 號

貴 電 第 二 五 八 號 一 一 閱

伊 王 政 府 ノ 意 念 對 レ テ ハ 聯 盟 理

外 務 省

事 業 於 可 能 考 量 ス 標 榜 至 方

在 っ ジ ュ ネ ー ヴ 石 井 大 使 電 訓 レ 至 キ

タ ル カ 在 っ ジ ュ ネ ー ヴ 合 大 使 宛 往 電 第

號 余 時 貴 官 ヨ リ ハ 伊 王 高 局

對 レ 本 件 ハ 平 明 九 港 抑 而 ノ 俟 數 月

シ 經 過 シ 停 慮 及 松 久 ノ 健 本 狀 態 无

恐 念 セ ラ ル 次 第 (伊 王 對 レ 示 內 幕 中

オ レ 置 事 業 中 實 小 和 多 中 手 名 ノ 外 不

5-0643

0099

意見が発表され、趣意は、聯盟理

事會に於て適當ナル保障方法を付

究ノ答ナルに依り一方伊王政府に於て互

急平明丸ノ廻航スヘキ港ヲ指定セラレ

キ旨重テ申入レラレ度レ也貴電ニ據レハ

伊王側ニ於テハ一箇月ノ收容費ヲ七十

万リラト見積リ居ル趣ナルモ平明丸ハ

停泊場一人ヲ付一日一食ノ見當ニテ餉ヒ来

外務省

リ免趣ニテ監視費等ヲ合算スルモ伊

王側計算ハ餘リ多キに過クルヤと思ハル

参考迄

在リジュネーヴに在リ石井大使、在英佛各大使

及在土耳其公使へ轉電アリタシ

(内
外)

八

八月三日 修平在船中

(戊辰用紙)

在船中監督將校事務

大正二年九月三日午後

八月三日平在船中監督將校事務

船中監督將校事務

船中監督將校事務

船中監督將校事務

大正二年九月廿七日記録係接受

外務省

5-0643

0101

電信課長

大臣

次官

亞細亞

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約



12895 (暗) 羅馬 七年九月 七日 前一二五
市有若 九ノ月 五三五

内田外務大臣

落合大使

第七三號

平明丸事件ニ関シ國際聯盟及レ万国赤十字會ノ代
表者トシテ先般來ビホウニ於テ盡力中ナリ
Paymond Schloemer ナル者今般ニ歸任ノ途
次特ニ当地ニ立寄リタル趣ヲ以テ六日當館ニ來
訪平明丸ノ近況ニ関シ
一希臘政府ハ同政府カ既ニ國際聯盟ノ要求條
件ヲ悉ク實行シタルモ拘ラズ伊太利側ノ遷延
爲ノ以上損害ノ増大スルコトヲ恐テ能ハズ

總陸海參軍

ト主張シツ、アリ即チ希臘政府ハ後自帝國政府
ヨリ損害賠償ノ要求ヲ受ケル事アル可キヲ豫想
シ其要求額ヲ増大スルコトヲ思フ能ハスト云フ
ニアリ

(二) 平明丸ノ船主ハ傭船契約期限ノ既ニ終了シ
タル今日至急同船ノ解放ヲ希望シツ、アリ
(三) 俘虜自身モ亦此上同船内ニ苦痛ヲ思フ
ヨリ寧ロ希臘ノ俘虜トナルモ厭ハサハシ
付一日モ速カニ上陸シ度シト切望シ居レリ
右ノ如キ事情ニ依リテ、儘放任セバ遂ニ希臘政
府ノ希望スルカ如ク、欣然同國ノ俘虜トシテ
上陸セシムルニ至ル可キヤヤセリ斯ル如クンバ

帝國政府、当初ヨリノ主張ヲ汲却セラル可ク同
人等段々ノ盡力ニ水泡ニ歸スル次第ニシテ
而モ貴官憲ハ最早此上ノ教目ノ遷延ヲ許サ
カル焦眉ノ急ニアル問題ナル旨ヲ告ケタリ
尚伊國外務省當局者ノ言ニ依レバ伊太利政
府ハ費用ノ補償ニ付日本政府ノ回答ヲ待テ
居ル趣ナル処未ダ回答無キヤト質問シタルニ
付現在本件ハ國際聯盟ニテ取扱ハレ居
ル件ニシテ費用ノ問題モ亦從テ國際聯
盟ニ於テ為ス可キ都合ナル可シト答ヘ
タル所同人モ之ヲ首肯シ同人ヨリ亟ニ
ロンドンニ電報シテ補償セシムルエトトシ

其回答ハ追テ貴館ニ通報ス可シト語リ
莫佛土、以在セホバ代表ハ轉電セリ。

明治三十四年

新田

INWARD TELEGRAM.

Dated 5/9 (1.20 p.m.)
Rec'd 6/9 (4.30 p.m.)

Rec'd 6/9 (4.30 p.m.)

TRANSLATION

歐米局長

九月廿五日 打車

55

電信課長

大臣

次官

亞細亞

歐米

通商

條約

情報

人事

會計

文書

平和條約

陸軍省、海軍省、文部省、農林省、商工省、逓信省、内務省、大蔵省、司法省、文部省、農林省、商工省、逓信省、内務省、大蔵省、司法省

主 次二

12954 (暗) コンスタンチノポリス 大正十年九月 八日 午後五時
本 省 着 十日 前六二〇

内田外務大臣

内田公使

第八一號

貴電第二九號ニ関シ (平明九ニ関スル件)

九月六日朝土國外務大臣・會見セルニ

同氏ハ能ク本件ヲ承知セテ費用支出

トハ既ニ土國政府・於テ約束セル件ナルニ

付前拂モ敢テ異議ナシ

本件ニ関シ未ダ國際聯盟ヨリ何等カノ

總陸海參軍

第24門

(2)

涉リ受ケタルトナリト 語リニ及ビ午後外務
次官嘉訪平明九 停廢監視費
トシテ伊國ヨリ一ヶ月七拾萬リッラノ前
拂ヲ要求スル函ニ在リ地ニ國赤十字
代表者ヨリ赤新月社ニ交渉セリ赤新
月社ヨリ亦、函更ニ陸軍省ニ交渉セ
ル陸軍省ヨリハ右額ハ過大ニ失シ後
人、停廢スルハ拂ヒ得ガレト國政府
ノ到函費撥ト得ル云ニアラズ伊國計
算。基礎判明セカモ、若シ之ヲ君府

収容スルハ各地物價ノ高キニ拘ハラズ
 右額ノ約十分の一ニ收容出来得ベキ者
 吾府ノ中立地タルニ鑑ミ伊國収容ヲ改
 メテ吾府収容ノコトニ決意旨ヲ以テ陸軍
 省獨斷ニテ赤新月社ニ挨拶ニ希升
 月社ハ右ノ故ヲ各地黨國者ヲ字代表
 者ヲ通ジテジエネガニ打電セラルニ至リ
 モナル旨本件ノ成行ヲ認リ依テ中使ハ
 外務省ニ如何ニ意見ナリヤト及問セラル
 外務省官ハ實際伊國ノ要亦額法

(13)

外ニテ吾府ノ収容スルハ運カニ控隔的ニ
 若シ其更出果得ベリハ存太利収容ヲ得
 吾府収容ノコトニ決意旨ヲ以テ陸軍
 省獨斷ニテ赤新月社ニ挨拶ニ希升
 月社ハ右ノ故ヲ各地黨國者ヲ字代表
 者ヲ通ジテジエネガニ打電セラルニ至リ
 モナル旨本件ノ成行ヲ認リ依テ中使ハ
 外務省ニ如何ニ意見ナリヤト及問セラル
 外務省官ハ實際伊國ノ要亦額法

(14)

本件ヲ速カニ解決ス所以ニ非ス既ニ
 今般モツイセツトハシアニ於テ前拂ミ莫
 儀ナキ旨ニ明ニ居ル次亦ニ有篤ト恨儀
 上若シ金額ニ付折合ハカス莫キ事共
 其ニ付伊國ト速カニ相談シ纏メテ様
 決メテ日本ニ於テモ何時迄モ手解
 シ留メ置キト解ハズ又同船々員ニモ
 病人ヲ生ジ居ル趣ニモアリ莫本件解
 決ハ一日モ速ナルヲ可トスルニ付其方針
 ニ至急お談ヲ纏ムル操合カ決セ
 (5)

交シト説示ニ置ケリ

英仏伊及一連ニテニ特電セリ

(6)